

とよこたち

美肌通信



H.T

今月号の表紙は、2人の女の子を子育て中のお母様から頂いた作品です。
毎日、元気いっぱいの姉妹のお昼寝の時間に描いて頂きました。
箱の中から、ちょこんと顔を出している猫。
ご実家の元気いっぱいの猫ちゃんをモデルに書かれたそうです。



豊郷 Tachikawa Clinic

たちかわ皮膚科クリニック*

早いもので今年もあと 1 ヶ月となりました。私も含めた全国の働くお父さん。あと少しでお正月です。2012 年を締めくくるこの 1 ヶ月、一生懸命仕事に精を出し充実した 1 年に致しましょう。もうひと頑張りです。ファイト！！

10 月号では皮膚のどこに異常が起こると乾燥肌になるのかをお話しし、11 月号では乾燥肌を起こす代表的な疾患 2 つについて解説させて頂きました。

今月は皮膚を乾燥から守る保湿剤について、その役割りと使用目的について話をしたいと思います。

保湿剤を外用することにより肌は清潔に保たれ湿いが与えられ、皮膚を保護することが出来ます。又同時に肌そのものを健やかに保つことが可能になります。

保湿剤といっても先ず大きく分けて医療用とそれ以外のものの 2 つに分類することが出来ます。ではこれらについてその特徴をお話し致します。

<保湿剤の種類>

保湿剤には医師しか処方することが出来ない「医療用医薬品」としての“保湿外用剤”と、市販されている「医薬部外品や化粧品」としての“保湿剤”があります。

① 保湿外用剤の種類

長所と短所をまとめました。

保湿外用剤の種類	長所	短所
ウレパール・ケラチミン・パスタロンなどの尿素系 (注) ジェネリックは除く	<ul style="list-style-type: none"> 保湿効果が高い ベタつきが少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 炎症が強い所やびらん面では刺激が出る
ヒルドイド・ヒルドイドソフト (へパリン類似物質) (注) ジェネリックは除く	<ul style="list-style-type: none"> 保湿効果が高い ベタつきが少ない のびが良い 	<ul style="list-style-type: none"> わずかに臭う

② 医薬部外品や化粧品の保湿剤の種類

各メーカーから様々な保湿剤が市販されています。

“保湿外用剤”よりも多数の商品があるため単純明快に表にまとめて分類することが困難です。しかし剤型の特徴により一般用語で分かりやすく言えば、化粧水・乳液・美容液・クリームに大きく分類することが出来ます。

・ 化粧水（溶液状のもの。）

水分の補給や保湿効果に優れているものの一定時間で乾燥に転じやすいのが短所と言える

・ 乳液（油と水を乳化したもの。粘度が低い。）

湿潤や柔軟効果があるが、わずかに化粧水よりベタつき感がある。

・ 美容液

美白剤や肌荒れ改善剤を含んでいる。比較的値段がはる。あくまで医薬品でないため、美白剤や肌荒れ改善剤の種類や濃度に限りがある。

・ クリーム（油と水を乳化したもの。粘度が高い。）

水分の蒸散を抑制する油分の高いもの。

<保湿剤の限界>

全ての薬が万能でない様に保湿剤もまたこれのみで全てをまかなうことは不可能です。例えば「湿疹や皮膚炎」が既に存在する時、通常これらを治療させることを目的とする場合、保湿剤のみでは役不足です。先に述べた通り保湿剤はあくまで保湿し乾燥を防ぐことが主な役割りだからです。従って乾燥のみからくる痒みであれば保湿剤のみで痒みが消えることもあります。しかし皮膚炎や湿疹で痒いのであれば抗炎症作用のあるステロイド外用剤を用いなければ痒みと炎症は改善致しません。

しかしコントロール良好なアトピー性皮膚炎や軽症の老人性乾皮症の場合、良好な状態を長く維持するケア目的に適切に各種の保湿剤を使用することは大変有用であり、このことは実験や論文でも明白なのです。すなわち医療用の保湿外用剤も市販されている保湿剤もあくまで“保湿を目的とした外用剤”であり、皮膚炎や湿疹を含めた「炎症性皮膚疾患」に対する“抗炎症作用”はないことを理解して頂く必要があるでしょう。

院長：刀川拝